

令和2年度厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業  
児童虐待対応におけるAI利用に関する調査研究

### 第三回検討委員会議事録

日時：令和3年2月16日火曜日 18時30分から20時30分

場所：theSOHO 2階ミーティングルーム（東京都江東区青海2-7-4）

オフラインとオンラインの併用開催

出席者： ※はオンライン参加

委員長 山本恒雄 愛育研究所 ※

委員 和田一郎 花園大学 ※

委員 渡邊直 千葉県柏児童相談所

委員 出路幸夫 川崎市こども未来局 児童家庭支援・虐待対策室 北部児童相談所 ※

委員 多田基哉 山口県健康福祉部 こども・子育て応援局 ※

委員 田中淳一 中野区子ども家庭支援センター ※

委員 薬師寺真 岡山県保健福祉部 子ども家庭課 ※

委員 清水正哉 三重県南勢志摩児童相談所 ※

説明補佐 宮崎太一 三重県南勢志摩児童相談所 ※

委員 鈴木聡 三重県児童相談センター ※

傍聴者 内山忍 三重県子ども虐待対策・里親制度推進監 ※

傍聴者 脇田委子 三重県児童相談センター ※

傍聴者 村田宣彦 三重県児童相談センター ※

傍聴者 大野久 厚生労働省 子ども家庭局家庭福祉課

傍聴者 久保隆 厚生労働省 子ども家庭局家庭福祉課

事務局 高岡昂太 株式会社A i C A N

事務局 橋本笑穂 株式会社A i C A N

資料：

資料1： 第二回検討委員会議事録

資料2： 調査報告書草案の要点

資料3： 調査報告書草案

#### 1. 開会

#### 2. 第二回検討委員会の議事録確認

資料1に基づいて、第二回検討委員会議事録が承認された。

### 3. 議事

#### (1) 報告書草案の要点説明

事務局より、資料2を用いて、報告書草案の要点について説明した。

#### (2) 意見交換

報告書草案に関して、次の論点で委員の意見交換を実施した。

##### ○大きなストーリーの提示について

- ・国全体で子どもを支えるためにやるべきことがデータに基づいて検証される必要がある(児相の個別の工夫・努力ではやりきれないこと)というスタンスでの各委員からコメントを踏まえた報告書ストーリーを明確にすること。
- ・AI技術の有効性についての説明を追加すること。
- ・各児相での予算説明などを考慮して、論点をできるだけ網羅すること。

##### ○AIの前提となるICT化の状況について

- ・AIの前提としてICTが必要だが、全国調査が示すように、委員が所属する自治体においてもICT化が進んでいない。
- ・ICT化が進まない背景に、システム導入上の制約や課題が、県レベルの問題であり、児童相談所単体で解決できないことがある。
- ・具体的には、県の情報セキュリティルールや県の情報政策との整合性などの問題から、児童相談所で必要性を感じていても、ICT導入が非常に難しい。
- ・ICT化やAI導入にあたっては、児童相談所レベルではなく、県レベルで動かせるようなシナリオが必要である。

##### ○AIの導入効果について

- ・先行してAIを活用している三重県において、AIは「正解を教えてくれるツール」ではなく、「過去の自分たちの対応の傾向を可視化し対応の妥当性検討を後押しするツール」として使われている。
- ・AIは、業務効率化のためのツールではなく、これまでの自分たちの対応を検証することを支援ツールとなると考えられる。
- ・AI導入による最大の効果は、「エビデンスに基づいた対応の検証をすることで、子どもの福祉を守り、向上させていけること」にある。

##### ○各自治体レベルではなく、全国統一のシナリオが必要である

- ・現状、全国で様々な業務システムが全く異なる運用方法で利用されている。また、既存の業務システムは、対応の検証を行うことを想定した仕組みになっていない。

- ・国全体として、エビデンスに基づいた政策決定や検証を進めるためには、全国統一で「対応の検証が可能な形でデータ蓄積を行うこと」に向けたロードマップを描く必要がある。

(3) 今後のスケジュール

令和3年2月26日 報告書第一稿完成  
令和3年3月15日 報告書確認〆切  
令和3年3月26日 報告書原稿確定

4. 閉会

以上